

所 信

【はじめに】

私は2011年に入会してから、東根青年会議所より多くの機会を与えていただきました。入会して3年目、初委員長を任せられた時の緊張感は今も忘れられません。青少年育成委員会委員長として担当したわんぱく相撲では、青少年育成の大切さを学ぶ機会をいただき、青年会議所運動のやりがいを見出すことができました。2016年山形ブロック協議会、2018年東北地区協議会へ出向の機会をいただいた時は、これまでの人生で体験したことのない辛さ、悔しさ、感動、楽しさ等、多くのことを体験し、自身の仕事や私生活に活かせることを学ばせていただきました。青年会議所は、多くの機会に巡り合える団体です。機会というのは、誰にでも訪れてくるものですが、自然に訪れてくるわけではなく、他の誰かが自分を見ていてくれて、巡り合わせてくれたからです。私たちには、自分自身で気づいていない能力がきっと備わっています。その能力を引き出し、成長させてくれるところこそが、青年会議所という素晴らしい団体なのです。今年度私は、東根青年会議所の理事長という、新たな機会をいただき、この団体を牽引していかなければなりません。しかし、今年度の東根青年会議所は、会員数の減少により、創立以来最大の危機を迎えます。その状況下で、この団体の舵取りをし、危機を乗り越えていくには、変えるべきところはしっかりと変えていく、残すところは今まで以上に良くする、戻すべき考え方があれば過去を振り返り戻していく、ありとあらゆる考えを取り入れていかなければなりません。地域をより良くする団体を次の時代に残していくために、そして、ここまで自分を成長させてくれた全ての関わった方への恩に報いるために、地域の発展と東根青年会議所の明るい未来へ向けて、覚悟をもって挑戦しつづけて参ります。

【新しい時代も創始の心を大切に】

1949年9月、太平洋戦争の爪痕が残る東京で、国難に立ち向かうべく青年が集い、日本における青年会議所運動が始まりました。この時から約70年、今日の日本は世界経済を牽引していくまで成長し、成熟した国家になったものの、新たな国難を迎えており、近い将来、先進国と言えなくなる日が来るかもしれません。その国難とは、地方の人口流出、少子高齢化社会の到来、それに伴う社会保障費の増大であります。私たちが住む山形県は全国で3番目に人口減少率が高く、県内で唯一人口が増え続けた東根市も、近い将来必ず人口減少と超高齢社会が訪れると思われまます。仮に東根市の人口が減らなくても、近隣市町村の人口は減っており、経済活動については確実に東根市に影響があるのは間違いありません。人口流出や少子高齢化による経済の低迷を避けるためにも、我々のような地域に根差した団体が、渦を巻くように市民を巻き込みながら積極的に行動に移すことが大切です。その渦が地域の枠を超え、県、地方、国と広がれば、自ずとこの国難と言える状況を克服していけるのではないのでしょうか。新たな国難を迎える今こそ、創始の志を呼び起こし、これからも絶えることなく、社会を動かす青年を生み出す存在として、このまちの市民と共に歩み続けて参りましょう。

【未来のまちを見据えて】

地方の人口減少、少子高齢化問題は、市民一人ひとりが意識して、今すぐにも解決策を見出していかなければならない、国難と言える状況になりつつありますが、効果的な施策は、政府も地方行政も見出せていない状況が続いております。このままでは現状が変わることはなく、現代社会の実情と合わせ、先進的かつ大胆な考えでこの問題に向き合わなければいけません。日本、世界中にある青年会議所としての強み、信用、つながりを最大限に活かし、多くの情報、援けを様々な地域から集め、地域の中心的な役割となって関係団体や個人と連携し、市民を巻き込みながらこの問題に関わっていく必要があります。その方法とは、アナログ的な方法から、固定概念を取り払った今までにない発想による方法も含め、多様な考えで検討していかなければなりません。まずは、地域をどのような形で活性化すべきかを考え、世界中にネットワークをもつ青年会議所の強みを活かし、私たちのまち、LOM、個人で何が出来るかを考えていきましょう。そして、地域を活性化していくには、法律も予算も必要かもしれませんが、一番大事なのはそこに住まう人びとの当事者意識であり、行動に移してもらうことです。我々がしていかなければならないまちづくりは、自立と持続可能な事業を地域の方々と共に創り上げ、市民の意識を変えていくことです。人びとを巻き込み意識を変えていくには、組織としてメンバー一人ひとりが未来を見据えてビジョンを描き、具体的な数値目標を設定し、今年度の目標を掲げ、地域の方々と実現性の高い計画を連携しながら作成し、戦略的に地域を活性化していくことが必要です。結果がすぐに出なくても、まずは行動に移すこと、継続していくことが大切です。

【JCブランドの強化】

JC(青年会議所)ブランドと聞くとなかなか聞きなれない響きですが、ブランドというのは、青年経済人にとって常に意識していなければならないことです。ブランドとは同じ商品群の中で高い識別性をもち、単に「見分けがつく」というレベルを超え、「常に他からは得られない満足をくれる」という信頼性が備わったことを言います。JCブランドとは、他のブランドと同じく、青年会議所独自の価値を含めた地域貢献を通じて、その価値を求める市民の期待と信頼に応え続けることにより、地域に利益、好循環が実現する事業、運動を継続的にし続けていくことだと考えます。私たちは日々のビジネスの際も、自社ブランドの信頼を高めていくに、何をすべきかを常に考えていることでしょう。同じように、青年会議所のメンバーとして、青年会議所のブランド力を強化することも、日々考え続けなければなりません。はじめに、まず意識すべきことは、質を高めながら発信を続けていくことです。せっかく良い青年会議所運動を展開するのであれば、運動の効果がより高まるよう、市民や県民に発信することが大切です。さらに、運動の効果を高めるだけに限らず、青年会議所はどのような団体で、他の団体とどのように違うかを、理解してもらうことも必要なことです。青年会議所は、他の団体にはないより良い運動をたくさん行っているのであれば、その運動をたくさん発信していき、JCブランドの価値を高めていきましょう。つぎに意識すべきことは、発信力ばかりではなく、事業内容でもブランド力を高めることです。その一つとして、今年、日本青年会議所本会は、これまで以上に各LOMと連携し、SDGsを積極的に推進していく流れとなりました。SDGsとはMDGsの後継として、2015年に国連で定められた国際目標であります。私たち東根青年会議所も、定款に示された目的と、綱領に示された「社会的・国家的・国際的な責任」を自覚できる運動を進めていくために、SDGs

を積極的に推進していきます。また、SDGsは青年会議所だけに限らず、これから成長していく企業に求められる、普遍的な社会的責任として扱われるようになります。日本ではまだまだ普及していない、グローバル基準となりつつあるSDGsを、積極的に各事業に取り入れることで、青年会議所運動自体の価値を高め、ブランド力を強化していきましょう。三つ目に意識すべきことは、青年会議所は地域を牽引する経済人が集まる団体として、もっと周囲に認知してもらい、地域の青年たちに憧れを抱いてもらえるような存在になることです。そのためには、メンバー一人の行動が常に市民から見られていると心掛け、行動していかなければなりません。青年会議所のおかげで会社が成長した、結婚が出来た、家庭環境が良くなった、青年会議所に入会している方は地域のために常に率先して行動している等、様々な観点から多くの市民に認めてもらうことが、何よりもJCブランドの価値を高めることではないでしょうか。常に会社、家族、住んでいる地域、子供たちの通う学校、所属している様々な団体のこともしっかりと考えられるメンバーこそが、JCブランドそのものと確信しております。あたりまえのことを真剣に、小さなことほど丁寧にしていくことを、メンバー一人ひとりが心掛けて行動に移していきましょう。

【未来の子こども達と、メンバーの成長】

青少年育成事業は、創立時より絶えず行ってきた運動のひとつであります。私たちは幼い時、自分の親以外にも周りの大人から褒められ、叱られ、色々と教わり成長し、今に至りました。子育て環境は、親だけで育ていくのは難しく、必ず周りの誰かが何らかの形で助け合っていることで、成り立っているはずで、青少年育成事業では、子供たちに徳性を育んでもらう前に、まずは周りの大人たちが連携し、子育て環境を作っていくという意識を高めていくことが求められています。情報技術が発達した今の時代だからこそ、子育て環境における地域の連携はますます必要性が高まっています。我々には、32年間続いてきた青少年育成事業、わんぱく相撲東根大会があります。わんぱく相撲は、遊び場の少ない東京で、子供たちの、心身の鍛練と健康の増進、社会生活に必要な徳性の涵養の場を与えることを目的として始まり、東根青年会議所もこの目的に賛同し、32年前より開催して来ました。長年培った経験、知識、データは青年会議所運動の手本になるものだと思います。これからはこの事業を、青少年育成だけにとどまらず地域連携のツール、メンバーの学びの機会として今まで以上に発展させていきましょう。

【会員拡大運動につなぐ誇りに思える組織への成長と健全な運営】

青年会議所は、メンバー一人ひとりの個性を活かし、力合わせてより良い社会を目指し運動を展開するとともに、メンバーからいただく会費収入によって事務所の家賃や人件費等の経費を支払い運営されております。そのため、運動の発展、団体の維持、運営のためには、一定数以上のメンバー数は必要であり、やるべきことは、会員拡大です。しかし、会員拡大を考えるにあたり、大切なことがあります。それは、既存のメンバーが今まで以上に、青年会議所運動に対する関心を高めること、そして、組織全体として運動、運営の質を高めていくことです。まずは、メンバーに対し、これまで以上に青年会議所運動に関心を高めってもらうには、事業構築する段階で創意工夫をし、自発的に参加してみたいくなる事業内容、参加しやすい仕組みを考えなければなりません。地域を変える団体だからこそ、まず目の前にいるメンバーの意識を変えていき、多くの青年会議所運動に参加、参画してもらうことによって、青年会議所運動に対し、やりがいを感じてもらうことが必要です。その結果、会員拡大運

動の際候補者に対し、青年会議所運動を、自信をもって勧めることができるのではないのでしょうか。つぎに、会員拡大運動を展開するにあたり、戦略をもって取り組むことが必要です。ただ単に会員拡大を叫ぶのではなく、いつ、どのタイミングで、どのような手法が良いのか研究し、有効な方法には柔軟な姿勢で取り組んでいくべきです。全国を見渡すと会員拡大や様々な青年会議所運動の成功事例はたくさんあります。自分達だけのアイデアだけでなく、日本各地の情報を活用し、他の青年会議所や団体、個人との連携も視野に入れ、常に進化させていき次へ繋げていくことが必要です。会員数は何もしなければ必ず減少していきます。地域の発展と、東根青年会議所で共に活動する仲間を増やすためにも、メンバーの力を結集し、これまで以上に新しい試みに挑戦し、実践していきましょう。

【関わる人へ感謝の心を】

青年会議所は様々な職種、性格をもった方が集まる団体です。意見の相違もあれば激しくぶつかる時もあります。しかし、どのメンバーにも言えることは、家族がいて、仕事があつて、誰かに支えられながら青年会議所で活動を行っていることです。我々はまちづくりの前に、常に周りの人、歴史を築いてこられて方々へ、感謝と敬意をもちつづけていなければなりません。関わる全ての人を楽しく笑わせ、常に明るい組織を目指し、他の人の個性を受け入れながら共に活動して参りましょう。

【結びに】

新しいことを成し遂げられる人は、自分の可能性と人を信じることのできる人。現在の能力をもって「できる、できない」を判断してしまつては、新しいことや困難に立ち向うことなどできるはずはない。人間の能力は、努力し続けることによって無限に広がる。青年は、常に自分自身のもつ無限の可能性を信じ、勇気をもって挑戦するという姿勢をもち続けよう、未来に向かって。